

# 愛知県福祉サービス第三者評価事業 評価結果

## ①第三者評価機関名

株式会社 中部評価センター

## ②施設・事業所情報

名称： あすかキッズステーション		種別：小規模保育事業
代表者氏名：端川 淳子		定員（利用人数）：１９名（１７名）
所在地： 愛知県小牧市大字北外山１９番地		
TEL： ０５６８－５４－８０２４		
ホームページ： http://www.askade.net		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日： 平成２７年４月１日		
経営法人・設置主体（法人名等）： 株式会社明日の福祉を考えるひとたち		
職員数	常勤職員：５名	非常勤職員：５名
専門職員	（園長） １名	（調理師） ２名
	（保育士） ６名	
	（看護師） １名	
施設・設備の概要	（居室数） ２室	（設備等）調理室・園庭・事務室
		食育用畑・休憩室・保護者専用駐車場

## ③理念・基本方針

### ★理念

子どもの個性を大切にし、保護者に寄り添い、地域からも信頼される保育園

### ★基本方針

あすかキッズステーション（以下「当園」という。）は、以下の運営方針に基づき、保育を必要とする児童を日々受け入れ、保育を行うことを目的とします。

- 当園は、保育の提供に当たっては、入園する乳児及び幼児（以下「園児」という。）の最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場を提供するよう努めます。
- 当園は、保育に関する専門性を有する職員が、家庭との緊密な連携の下に、園児の状況や発達過程を踏まえ、忙しい保護者のお手伝いをすることで貢献していきます。
- 当園は、園児の属する家庭や地域との様々な社会資源との連携を図りながら、園児の保護者に対する支援及び地域の子育て家庭に対する支援等を行うよう努めます。

保育目標： 「元気で活発な子」「明るく情操豊かな子」「自分でやる子」

保育方針： 優しく、笑顔で、元気な子

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

- ・安全・安心な保育環境  
防犯カメラや2重ロック、毎月の避難訓練消火訓練防犯訓練の実施、アレルギー対応や健康管理の徹底（空気清浄機の設置、定期的な消毒）をしています
- ・栄養バランスのとれた給食  
園内調理・栄養士監修の献立、季節感のあるメニュー、手作りおやつ、行事や誕生会等の日の特別メニューの提供、個別対応の離乳食、毎日の給食（離乳食）をSNSで保護者へ情報共有しています
- ・職員配置  
子育て経験、経験10年以上の保育士、看護師が在籍  
ベテランと若手のバランスがとれた配置になっています  
外国講師による英語教室
- ・施設  
人工芝の広い園庭 日差しが強い時季は、日よけを設置し1年を通じて外気に触れるように工夫しています  
園舎前に広い駐車場あり、食育用の畑を有し、苗から野菜を栽培し収穫を体験し給食で提供
- ・保護者との連携  
保育において、子どもとの関わりと同じくらい保護者との信頼関係作りにも力をいれ 毎日の送迎時のちょっとした会話やアプリでの連絡帳で家庭の様子を共有し合い安心して預けて頂けるよう意識しています

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和7年5月24日（契約日） ～ 令和8年1月6日（評価確定日） 【 令和7年10月18日（訪問調査日） 】
受審回数 （前回の受審時期）	初回 （平成 年度）

#### ⑥総評

##### ◇特に評価の高い点

##### ◆園長の雰囲気づくり

園長を中心に職員間の意見交換が活発で、風通しの良い職場環境が形成されている。職員同士が日常の業務や課題について気軽に相談し、互いに支え合いながら保育の質の向上に努めている。園長が子どもと関わりながら保育を実践する姿勢は、職員の良い手本となっており、ベテラン職員の経験と若手職員の柔軟な発想が調和し、安定した保育運営につながっている。

##### ◆恵まれた保育環境

小規模保育所でありながら園庭があり、野菜づくりや身体活動を通して、こどもがのびのびと過ごせる環境を整えている。自然に恵まれた立地や安全な人工芝の庭園が、活動的な遊びと心身の成長を支えている。

##### ◆保護者満足の取組み

未満児保育に英語教育を取り入れ、簡単な歌やゲームを介して楽しく英語に親しむ機会を設けている。毎週の英語教室は、子どもの興味や感性を育む取組みとして、保護者からも高く評価されている。また、SNSを活用し、保護者に対して子どもの日常の様子を分かりやすく発信する等、保護者や地域への情報提供に積極的に取り組んでいる。

##### ◇改善を求められる点

##### ◆人事基準等の明確化

職員が将来像を明確に描きながら働けるよう、キャリアパスの内容を明文化し、人事基準やスキル要件を明確にすることで、就労意欲の向上と安定した人材育成の推進が期待される。

◆園独自のマニュアルの作成

法人作成のマニュアルは整っているが、園独自のマニュアルがなく、職員全体での共通理解が十分とはいえない。園の実情や地域特性等を考慮し、園独自のマニュアルを整備することが望ましい。

◆職員の業務負担の軽減

乳児に特化した少人数で家庭的な手厚い保育を行っている。一方で、発達に配慮が必要な子どもや国外にルーツをもつ子どもも在籍している。これらの多様な背景への対応に向け、専門的知識の習得と外部支援機関との連携強化が求められ、職員の業務負担は大きい。今後は、職員の負担軽減に向けた支援体制の工夫が求められる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の第三者評価を通して園の日々の保育や運営を客観的な視点から見直すことが出来ました。評価員の方からの丁寧なご指摘や温かいお言葉をいただき職員一同大きな励みとなりました。小規模ならではの家庭的な雰囲気や一人ひとりに寄り添う保育を大切にしながらより信頼される園づくりを目指して行きたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

### 第三者評価結果

※すべての評価細目（65項目）について、判断基準（a・b・cの三段階）に基づいた評価結果を表示する。  
※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する

#### 【共通評価基準】

#### 評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

##### I-1 理念・基本方針

			第三者評価結果
I-1-（1） 理念、基本方針が確立・周知されている。			
I-1-（1）-①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	保1	① a ・ b ・ c
<コメント> 保育理念・保育目標・保育方針を明文化し、パンフレットやホームページで公表している。保育室内にも掲示しており、保護者や来訪者が容易に確認できる。年度初めの職員会議で全職員に周知し、理解の共有を図っている。また、国外にルーツを持つ保護者にも分かりやすい資料の作成を進めており、誰もが理念を理解できる体制づくりに努めている。			

##### I-2 経営状況の把握

			第三者評価結果
I-2-（1） 経営環境の変化等に適切に対応している。			
I-2-（1）-①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	保2	① a ・ b ・ c
<コメント> 法人の理念および基本方針を明確に定め、全職員に周知している。市で月2回開催される小規模保育施設長会議に参加し、他園との情報交換を通じて運営方針の確認と改善を進めている。また、法人グループ内の園長会を毎月1回開催し、法人本部から社会福祉事業や各市区町村の子ども計画に関する情報提供を受け、理念を踏まえた運営に努めている。			
I-2-（1）-②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	保3	a ・ ② b ・ c
<コメント> 国外にルーツを持つ子どもや配慮を要する子ども、家庭環境に課題のある子どもの受入れに際し、職員間で情報を共有し、外部支援機関との連携を進めている。産休・育休中の職員体制や復帰後の働き方も課題として明確にし、役員間で共有した上で職員にも周知している。今後は、これらの課題解決に向けた取組みの具体化と、継続的な見直しの実施に期待したい。			

##### I-3 事業計画の策定

			第三者評価結果
I-3-（1） 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			
I-3-（1）-①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	保4	a ・ ① b ・ c
<コメント> 「全体的な計画」において、教育および保育の目標を明確に定め、園の運営方針と一体的に進めている。職員間で共通理解を図り、日々の実践に反映させている。今後は、経営課題や問題点を踏まえ、中・長期的な数値目標を含む具体的な計画を策定し、実施状況を客観的に評価できる体制の強化を望みたい。			
I-3-（1）-②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	保5	a ・ ② b ・ c
<コメント> 「全体的な計画」に基づき、年度ごとの目標を設定しているが、内容は方針を示すに留まり、実施結果の検証には至っていない。保育の内容に関する「全体的な計画」では方向性を示しているが、年度計画との連動や成果の確認方法が明確でない。今後は、経営課題の解決に向けた具体的な取組み内容や数値目標を設定し、実施状況を評価できる仕組みを整えることを求めたい。			

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。			
I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	保6	a ・ ⑥ ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>年度初めの職員会議において、園長が今年度の事業計画を説明し、職員理解を図っている。各月の行事前後には職員会議を行い、活動の振り返りと意見の集約を通じて、計画の実施状況を確認している。職員の意見が運営に反映される仕組みがある。今後は、評価結果を基に計画を見直す取組みをより明確にし、次年度の事業計画に活かす体制づくりを望みたい。</p>			
I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	保7	a ・ ⑥ ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>事業計画は、入園説明会や懇談会等の機会を通して保護者に説明し、理解を深める取組みを行っている。「入園のしおり」や配付資料を用いて内容を明示し、保護者との共有を図っている。行事の様子を写真やSNSで発信し、園の取組みを分かりやすく伝えている。今後は、計画の目的や実施状況、成果を保護者と振り返る機会を設け、より一体的な理解促進につなげることが望ましい。</p>			

#### I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果	
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。			
I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	保8	① ・ b ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>園では、行事ごとに職員による自己評価を実施し、結果を全体で共有している。保育の中で発生した課題は職員会議や法人本部との情報共有を通じて改善に努めている。今後、第三者評価の結果を分析し、課題の整理と改善策の検討を行う予定であり、組織的な取組みとして保育の質の向上が期待できる体制である。</p>			
I-4-(1)-② 評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	保9	a ・ ② ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>行事終了後に振り返りを行い、運営面や保育内容における課題を明確化している。明確となった課題は職員会議において共有され、協議の上で改善計画にまとめている。策定した改善計画を単年度計画や中・長期計画に反映させる取組みが期待され、組織的に継続した改善の流れが形成されつつある。今後は改善の成果を具体的に検証し、次の課題解決に結び付ける仕組みづくりが望まれる。</p>			

## 評価対象Ⅱ 組織の運営管理

### Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果	
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。			
Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	保10	a ・ ⑥ ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>園長は年度初めに職員の役割や責任分担を明確にし、理解促進に努めている。法人本部からのコンプライアンスに関するガイダンスを共有し、法令遵守の意識の浸透を図っている。防犯・防災・保健衛生管理等の各マニュアルを整備し、危機対応体制の基盤は整っている。しかし、園長不在時の権限委任については明記がなく、今後、責任の所在を明確にする取組みが期待される。</p>			
Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	保11	a ・ ⑥ ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>法人の園長会や市の小規模保育施設長会、市からの通知やメール等を通じ、法令や制度改正に関する情報を収集している。得た情報は職員会議や書類回覧により全職員へ周知し、押印をもって確認を行っている。法令遵守への意識は職員間で共有されているが、関係法令の資料を体系的に整理・保存する仕組みづくりが今後の課題であり、継続的な改善に期待したい。</p>			
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。			
Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	保12	① ・ b ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>園長は理念を基本に保育の質の向上を目標に掲げ、年度初めに職員会議で共有している。職員はOJTや文書回覧、SAS等を活用し、日常の業務の中で学びを深めている。園長は研修会への参加を通して得た知見を積極的に伝達し、職員の意欲を高めている。職員間の風通しも良く、何でも話し合える雰囲気形成され、楽しく保育の質を高める取組みが推進されている。</p>			
Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	保13	① ・ b ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>法人本部が財務・人事・労務を一括処理し、専門家へ委託しているため、園長への報告は限定的である。人事配置は本部が事前に各園長と相談して決定し、シフトは全体で調整され公平性が保たれている。園長は現場の状況を把握し、事務時間の確保や業務の効率化に向け、職員への確かな指示を行っている。法人全体の実効性向上に寄与する体制が整っている。</p>			

### Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

第三者評価結果			
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。			
Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	保14	① ・ b ・ c	
<p>＜コメント＞</p> <p>必要な福祉人材の確保および定着に向けた方針が明確であり、計画的な取組みが行われている。職員体制は、保育士をはじめ社会福祉士、管理栄養士、看護師、調理師等の専門職の雇用を確保している。採用活動では、保育士フェアへの参加やハローワーク、人材求人サイトの活用等、多様な手段を用いている。各種の研修や定期的な面談により、職員の定着と育成を図っている。</p>			
Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	保15	a ・ ② ・ c	
<p>＜コメント＞</p> <p>「期待する職員像」が明確に示され、職員は4月に目標を設定し、9月と3月に100項目の自己評価を実施している。園長評価と法人本部での個人面談が行われ、3月にはそれらを基に本部評価を実施している。目標管理制度があり、職員の成長を支援する仕組みが整っている。今後は、キャリアパスの構築を通じて、職員が自らの将来像を描ける総合的な人事管理体制の確立に期待したい。</p>			
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。			
Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	保16	a ・ ③ ・ c	
<p>＜コメント＞</p> <p>有給休暇やバースディ休暇の取得状況を確認し、職員の就業状況を把握している。勤務シフトは園長が全体を見渡して編成しており、系列園との協力体制の下で時間外労働の削減に努めている。ワーク・ライフ・バランスに配慮し、年1回の面談を通じて職員の意向を聴取している。今後は、労務管理の責任者や体制を明確にし、より安定した働きやすい職場環境づくりを目指されたい。</p>			

Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			
Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	保17	a ・ ㉔ ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>「期待する職員像」が明確になっており、年度初めに職員が目標を設定し、9月に自己評価による進捗管理、年度末に最終評価を行う仕組みを整えている。園長は年度末に法人本部からの評価と照合し、職員に対して次年度に向けた助言を行っている。職員が目標水準や達成期限を明確に理解できるよう、より具体的な評価基準を作成することが望ましい。</p>			
Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	保18	㉑ ・ b ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>職員の教育・研修に関する基本方針と計画が明確に策定され、計画的に実施している。法人全体で月1回の研修を行い、外部研修を受講した職員は「研修事後シート」を作成し、職員間で内容を共有している。園内研修は保育内容や課題を踏まえ、様々な分野を取り上げて実施している。研修計画は毎年度見直し、全職員から意見を聴取し、現場の課題を反映した取組みが進行している。</p>			
Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	保19	a ・ ㉔ ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>法人内外の研修機会を積極的に確保し、職員育成を支援している。新人研修に加え、経験年数や専門性に応じた研修を計画的に実施し、園長の判断で勤務シフトを柔軟に調整しており、正規、非正規職員を問わず参加できる体制を整えている。一方で、研修受講の機会がやや限られており、小規模園の特性を生かした専門性向上に向け、今後の体系的な研修の実施が望まれる。</p>			
Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。			
Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	保20	a ・ ㉔ ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>実習生の受入れにあたり、指導者に対する研修を実施し、指導内容の均質化に努めている。学校側と連携して実習プログラムを整備し、実習記録を職員全員で共有する等、組織的に取り組む姿勢がみられる。今後は、実習生受入れに関するマニュアルや基本姿勢を明文化し、継続的な受入れ体制の整備を進めることが望ましい。</p>			

### Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果	
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。			
Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	保21	a ・ ㉔ ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>ホームページやSNSを活用し、保育の基本方針や保育内容を公開している。地域行事への参加やパンフレットの配布により、園の理念や方針を広く伝えている。意見箱の設置や掲示による要望の共有等、情報公開の姿勢がみられる。第三者評価の受審は、今回が初めてである。今後はその結果を踏まえ、情報公開の方法や内容をさらに充実させることで、運営の透明性を一層高められたい。</p>			
Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	保22	a ・ ㉔ ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>小口現金の取扱いは、「金種表」を作成し、手提げ金庫を用いて鍵付きロッカーに保管する等、法人の規程に沿って適正に行っている。現金管理の最終確認は園長が行い、顧問税理士の助言を受けている。外部専門家による監査支援の結果や指摘事項を踏まえ、改善事項を中・長期計画や単年度計画に反映させる取組みを進めることで、より透明性の高い事業運営を目指されたい。</p>			

### Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

			第三者評価結果	
Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。				
Ⅱ-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。			保23	① ・ b ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>地域との関わりを大切にし、こどもが地域社会の一員として成長する取組みが進められている。園の周囲は田畑が多く、散歩の際には農家の方との自然な交流が生まれている。障害者施設からキノコをいただく等、温かな交流が続いている。隣接する介護施設との関係はコロナ禍で一時途絶えたが、再開を強く望み、朝市への訪問等を通じて関係の再構築を図っている。</p>				

Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	保24	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>中学生の職場体験についてエントリーを行う等、地域の学校教育に協力する姿勢が見られる。現時点では受入れ実績はないが、今後、関わりを深める意欲がある。ボランティア受入れに関する方針や体制は整備の途上であり、今後はマニュアルの整備や手順の明文化を進め、職員間で共有することで、受入れ体制の確立と安全で円滑な対応が期待できる。</p>		
Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
Ⅱ-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	保25	㉕ ・ b ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>地域の保健センターや発達支援センター等との連携体制が整っている。気になるこどもの情報は、園長を中心に関係機関と共有して支援につなげている。「虐待対応マニュアル」を作成し、全職員へ周知しており、適切な報告・相談の流れが確立している。図書館の配達図書を活用する等、地域資源を積極的に保育活動に取り入れている。</p>		
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
Ⅱ-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	保26	㉖ ・ b ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>地域の子育て家庭に対し、園見学の機会を通じて子育て相談や入園相談を受け、地域の実情や保護者の要望を把握している。相談内容は職員間で共有し、保育内容の見直しや支援体制の充実に役立てている。また、今後は近隣の介護施設との協働により、世代間交流の機会を広げる取組を検討しており、地域の多様な福祉ニーズに応じた活動の展開が期待できる。</p>		
Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	保27	a ・ ㉗ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>ホームページで「食育だより」や「給食だより」、「ほけんだより」を毎月公開し、家庭や地域に保育や健康に関する情報を提供している。一時預かり保育を通年で受け入れ、掲示により地域に周知している。今後は、近隣施設や住民との防災面での協力体制をさらに整え、地域全体で安心して生活できる環境づくりを推進する取組みが望まれる。</p>		



## 評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

### Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果	
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。			
Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	保28	①     ・     b     ・     c	
<p>＜コメント＞</p> <p>職員7人体制であり、保育所内の共通理解を図るために「伝言ノート」が使用され、出勤したら必ず確認するように周知している。国外にルーツを持つ子どもが在籍しているが、思いや言いたいことが言える環境を作っている。主任・副主任がいないので、保育目標等が実践できるようベテランの保育士が伝えている。</p>			
Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	保29	a     ・     ②     ・     c	
<p>＜コメント＞</p> <p>水遊びなどでは、水着ではなく濡れてもいい服で行い、着替えは必ず保育室で行い、外部から見えないように工夫している。子どものプライバシー保護などの権利擁護について、法人作成のマニュアルは確認できた。法人のマニュアルだけでなく、自園ならではのマニュアルの整備と全職員が周知することを願いたい。</p>			
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。			
Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	保30	a     ・     ③     ・     c	
<p>＜コメント＞</p> <p>園のパフレット、ホームページに理念、保育内容が記載されており、市役所などに置き、多くの人が手に取って見ることができる。園の見学者にも個別で丁寧に対応し、それぞれの保護者にとって分かりやすい工夫がされている。内容に関して、現場の保育士が見直す機会を作ることが望ましい。</p>			
Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	保31	④     ・     b     ・     c	
<p>＜コメント＞</p> <p>入園説明会において保育内容の説明を行い、保護者の理解を得ている。配慮が必要な保護者には個別に丁寧な対応を行い、信頼関係の形成に努めている。今後も保護者の多様な状況を踏まえた説明体制を継続し、相互理解の促進を図ることが期待される。</p>			
Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	保32	a     ・     ⑤     ・     c	
<p>＜コメント＞</p> <p>転園先への引き継ぎ文書は見られなかった。園内共有の個別の引継ぎノートは確認できたが、その文書を提出するのではなく、個別のまとまった文書の改善を望みたい。保育利用が終了したときの相談窓口が整っているとは言い難い。これも併せて文書化し周知することを期待する。</p>			
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。			
Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	保33	a     ・     ⑥     ・     c	
<p>＜コメント＞</p> <p>保育の質の向上のために保育士が話し合いを重ね、保護者が満足するよう日々取り組んでいる。保護者へのアンケート調査も行い、保護者の不満は上がっていないということから、意見の分析をする機会は設けていない。保育の改善に向けての検討会議を期待したい。</p>			
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。			
Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	保34	a     ・     ⑦     ・     c	
<p>＜コメント＞</p> <p>要望・苦情の体制を示す掲示が確認できなかった。「重要事項説明書」には記載されている。苦情等の受け付け窓口が設置されているので、見やすい場所への掲示を望みたい。投函箱は、破損後製作中とのことであり、速やかな設置を期待したい。</p>			

Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	保35	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> 口頭での「相談はいつでもどうぞ」と伝えてはいるが、文書記載はなく、保護者全員が周知しているかどうかは不明である。登降園時には、よく保護者と話をしているという話しやすい環境下ではある。相談内容や状況において、2階の休憩室を利用する等の配慮がある。		
Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	保36	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> 保護者からの意見には、しっかりと会議で話し合い、職員間で情報が共有されている。会議で検討したことを、保護者にも公表している。組織的に対応するためには、全職員がマニュアルを理解し、状況説明が職員によって違いがないような体制を構築されたい。		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な保育の提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	保37	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> 「ヒヤリハット報告書」の提出件数に明確な基準は設けていないが、保育後に自身の振り返りを行い、記録できる際に作成している。職員一人ひとりが安全な保育を意識し、事故防止に努めている。今後は、リスクマネジメント体制のさらなる充実を図り、継続的な安全確保に向けた取組を進めることが課題である。		
Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	保38	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> 感染予防対策として、罹患の報告を受け取り次第感染を知らせる「お知らせボード」を活用している。日頃の感染予防としては、保育室や玩具の消毒は徹底しており、マニュアルも整備されている。しかし、感染予防の責任者が確認できなかった。今後は、責任者の明確化とともに園内研修の実施やマニュアルの見直しを行うことを期待する。		
Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にやっている。	保39	a ・ ㉞ ・ c
<コメント> 月1回の避難訓練の他、水害警戒地区にあるため水害を想定した訓練は年3回実施している。非常食も、水を避けるために2階の倉庫に備蓄している。アレルギー児にも対応可能なものを用意している。災害BCP（事業継続計画）の確認ができなかった。BCPを早急に整備し、すべての職員が周知できるよう期待する。		

## Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

		第三者評価結果	
Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。			
Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	保40	a ・ ㉞ ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>「保育マニュアル」の内容について、全職員が理解を深め共通認識を持つことが重要である。定期的な園内研修の実施により理解の定着を図り、年1回以上の全体確認と見直しを行うことで、より実効性のある運用につながる。今後は、継続的な研修体制の強化とマニュアルの更新を計画的に進めていくことが求められる。</p>			
Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	保41	a ・ ㉞ ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保護者からの意見を基に、マニュアルや手順書を使用してPDCAサイクルを回し、計画的に保育の質の向上につなげていってほしい。標準的な実施方法（保育マニュアル）の見直しについての明確なルールを定め、文書化を望む。</p>			

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。			
Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に作成している。	保42	a ・ ㉔ ・ c	
<p>＜コメント＞</p> <p>ベテラン保育士が、子どものアセスメントと「計画のねらい」や、援助を把握した指導計画を作成している。担当保育士が、それに基づき個別指導案を立てている。子どもの発達状況や保護者の意向を把握し、一人ひとりに特化した指導計画を作成している。国外にルーツを持つ子どもや発達が気になるこども等、多様化に対応するため、園外の関係者や専門家を交えての会議の実施を望む。</p>			
Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	保43	a ・ ㉔ ・ c	
<p>＜コメント＞</p> <p>職員会議や事前の話し合い、またリラックスしている休憩時間等を利用して子ども全体の姿を共有している。毎年度末までの目標を立て、それに沿った保育を提供し、目標に達しなかったら来年度に持ち越すなどの対応をしている。職員の年齢も比較的若く、価値観に差異のない話し合いの場が設けられている。指導計画の見直しは、可能な限り職員全員が参加されたい。</p>			
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。			
Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	保44	a ・ ㉔ ・ c	
<p>＜コメント＞</p> <p>記録はすべて共有の手書きファイルにあり、職員はいつでも閲覧できる状態にある。個別の指導計画も他の職員が共有情報として手に取ることができる。職員によって記録の内容に差異が生じないよう、園内研修を定期的実施されたい。</p>			
Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	保45	㉔ ・ b ・ c	
<p>＜コメント＞</p> <p>子どもに関する記録の管理体制については、園長が責任者となっている。鍵付きロッカーに保管してあるため、決められた職員しか取り出せない仕組みができている。個人情報の取扱いについても、入園時に保護者の「同意書」が提出されている。</p>			

## 【内容評価基準】

### A-1 保育内容

		第三者評価結果	
A-1-(1) 保育の全体的な計画の編成			
A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育の全体的な計画を編成している。	保46	a ・ ⑥ ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>「保育の全体的な計画」は法人が作成している。追記で園長が加筆し、園独自のものとなっている。現場の保育士は作成に参加していないので、今後は現場保育士の参加の下で作成されることを望みたい。</p>			
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開			
A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	保47	a ・ ⑥ ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育室は衛生的であり、空気清浄機やエアコン等も清潔が守られていた。玩具も定期的に消毒を行っており、安心・安全が確認できた。しかし、時間帯によっては、子どもが自由に玩具を選んで遊ぶことが制限されたりするということなので、子どもにとって心地よい環境の提供を心がけられたい。</p>			
A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	保48	④ ・ b ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>0～2歳児それぞれが、自分で好きな玩具を選ぶことができるよう配慮している。早朝保育や延長保育などで園にいる時間が長い子どもや、国外にルーツを持ち、言葉の理解が難しい子どもに対しても、子ども一人ひとりに寄り添えるよう、穏やかに言葉をかけるようにしている。</p>			
A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	保49	④ ・ b ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子こどもに無理のないよう、発達段階に応じた丁寧な対応を行っている。一度に多くを習得させるのではなく、週ごとに目標を設定し、子どもの状態を大切にしながら保育を進めている。成功体験を積み重ねることで意欲を育み、次の成長につなげる取組みが実践されている。今後も、一人ひとりに寄り添った保育の継続を期待する。</p>			
A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	保50	④ ・ b ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>保育室内で子どもが自由に玩具を選び、伸び伸びと遊ぶことができるように玩具が置いてある。近隣は畑などの自然に恵まれ、天気の良い日には散歩に出かけ、虫や植物、季節を感じることができる活動を行っている。</p>			
A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保51	a ・ ⑥ ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>2部屋をうまく使い分けて保育を行っている。必要に応じて仕切りをしているが、0歳児が、穏やかに過ごすことが難しい時間帯もある。0歳児が長時間過ごすことを考慮し、それに必要な保育が提供されることを期待したい。</p>			
A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保52	④ ・ b ・ c	
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>子ども一人ひとりが自由に探索活動ができるように工夫している。保育士だけでなく、調理員も加わって子どもとのコミュニケーションの場を設けている。子どもの特性が出てくる年齢でもあり、ゆっくり関わることを大切にしている。</p>			

A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保53	a ・ b ・ c
<コメント> 非該当		
A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保54	a ・ ⑥ ・ c
<コメント> 子ども個々の指導計画を作成し、子どもの成長に合わせた保育を行っている。家庭と園での生活で子どもが迷うことのないよう、保護者とは密に情報交換を行っている。自治体との連携もあり、障害のある子どもを受け入れる体制は整っているが、障害児保育について職員全員が理解を深めることができるよう期待したい。		
A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	保55	④ ・ b ・ c
<コメント> 時間帯に応じて、子どもが過ごす環境の整備は意識している。園庭で遊ぶ時間やテレビを観る時間を作り、子どもが飽きることなく楽しめるように配慮している。異年齢の保育となるが、職員数も少ないことから、職員同士の情報共有はできている。		
A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	保56	a ・ b ・ c
<コメント> 非該当		
A-1-(3) 健康管理		
A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	保57	a ・ ⑥ ・ c
<コメント> 「保健だより」を通じて季節の感染症を保護者に発信したり、降園時に子どもの「本日の様子・体調」や「けがの有無」を丁寧に伝えている。SIDS（乳幼児突然死症候群）については掲示しているのみなので、毎年11月のSIDS月間を利用して情報発信する等、保護者も正しい情報を得ることができるよう工夫されたい。		
A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	保58	a ・ ⑥ ・ c
<コメント> 健康診断や歯科検診後は、アプリを活用して保護者に結果を伝えている。虫歯予防デーには歯磨きの絵本を読んだり、職員が出し物（寸劇等）を行って子どもたちが関心を持てるようにしている。こどもの口腔内が清潔に保てる方法等、職員間で話し合うことを望みたい。		
A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	保59	a ・ ⑥ ・ c
<コメント> アレルギー児には、ガイドラインに従って除去や代替え食品で給食を提供している。アレルギー児に提供するときに事故がないよう、チェックは徹底して行っている。園長や調理員は、アレルギー児や慢性疾患児の対応について共有はされているが、職員研修を繰り返し実施し、すべての職員が身につくよう期待したい。		
A-1-(4) 食育、食の安全		
A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	保60	④ ・ b ・ c
<コメント> お誕生日会には「アンパンマンケーキ」を子どもと一緒に作るなどし、食べる楽しみだけでなく、作る楽しみの非日常を大切にしている。プランターで育てた夏野菜を味噌汁に入れることで、食への興味も湧いてくるようにしている。「献立表」はカラー写真が入っており、文字を見るだけでなく視覚で楽しめる工夫もしている。		

A-1-(4)-②	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	保61	a ・ ㉔ ・ c
<コメント> 献立は季節に合ったメニューが考えられている。外部委託の調理員が調理して提供していることもあり、子どもたちと直接的な接点が薄い。食育の場面で、栄養士や調理員の活躍を期待したい。			

## A-2 子育て支援

		第三者評価結果	
A-2-(1) 家庭と綿密な連携			
	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	保62	㉔ ・ b ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>連絡アプリを活用して子どもの様子を発信したり、登降園時に対話を重ね、保育園と家庭の情報は相互に共有している。年1回の保育参観は、保護者の好きな時間に保育を見ることができ、保育内容を知ってもらう大切な機会となっている。</p>			
A-2-(2) 保護者の支援			
	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	保63	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>園長はじめ職員は、常に「いつでも相談にのります」を保護者に向けて口頭で伝えている。しかし、全保護者に伝わって活用されているか定かでない。情報共有の観点から、口頭だけでなく案内文書を作成する等、記録を残すことを期待したい。</p>			
	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	保64	a ・ ㉔ ・ c
<p>&lt;コメント&gt;</p> <p>登園時の視診については、毎日丁寧に行うことを大切にしている。子どもの様子に変化が見受けられるときは、臨時で職員を集め情報を共有している。場合によっては、直ぐに市役所と児童相談所へ連絡を入れることとしている。今後はマニュアルに基づいた園内研修や外部研修に参加し、より知識を高めていくことを期待する。</p>			

## A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果	
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)			
	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	保65	a ・ ㊦ ・ c
＜コメント＞ 年に3回自己評価を実施している。園長面談はあるものの、自己評価の結果が分析されることはなく、職員の振り返りだけで終わっている。職員同士が積極的に保育の改善を見つけ、学べる場を作っていくことを期待する。			